

BDC SHOWCASE 2025 演出家インタビュー

中村遥佳・ユキジ



(左)ユキジ (右)中村遥佳

インタビュアー (以下「I」): 来年 2025 年のショーケースの演出をされる中村遥佳さんとユキジさんにお話を伺わせていただきます。早速ですが、自己紹介をお願いします！

ユキジ:

日本女子体育大学卒業、茨城県出身です。茨城県でジャズダンスを学び、BDC ではスカラシップ生として修行させていただきました。2年ほど週末はアーティストのバックダンサー、平日はダンスとジムのインストラクター…コロナを機に教えるの機会が増え、現在は高校ダンス部コーチ、ミュージカルの振付などで創り方、伝え方も日々勉強中です。そして今回は初の演出という機会をいただきました。人生で初！は一生に一度なので苦戦するとは思いますがとにかく楽しみたいと思います。

中村遥佳:

新潟県出身です。クラシックバレエから始めて、創作ダンスやコンテをやっていました。実は一度ダンスをやめて、大学を経た後、看護師として働いていました。もう一度ダンスをやろうと思い、BDC のスカラシップ生を経て、今クラスを担当させていただいています。コンテンポラリーダンスの舞台作りや作品作りを学び、ジャズやコンテに出演したり創作をしています。怖い人じゃないので、ぜひ出会ってください！(笑)

I: 最初に演出を依頼された時のご感想を教えてください。

ユキジ: とても驚きました。前はピックアップの振り付けをさせてもらいましたが、演出のお声かけは、「驚き×驚き」という感じでとても嬉しかったです。

遥佳: 単純に嬉しかったです！



I: BDC ショーケースでの経験についてご自身の言葉で教えてくださいませんか。

ユキジ：私は初めてがスカラーシップのオーディションとしてのショーケースでした。リハでリボンつけて舞台でも審査されて。それを目掛けて出演したのがきっかけです。大学卒業後、ダンスの修行をしよう、学ぶ一年にしようと思って出演を決めました。

誰も知り合いがいなくて一人で飛び込んで、淡々とリハに臨んでいました。年末のリチャード先生のクラスがきっかけで BDC には通ってましたが、その後西林先生のクラスでターンしてジャンプして吐きそうになりながら特訓されました(笑)。在学中は自分の癖を尖らせないといけない世界だったので、BDC では色々なジャンルに挑戦して自分の幅を広げようと思いました。友達を作る暇はないと思ってリハに出ていましたが、みんなとても優しかったです！！(笑)

遥佳：私も BDC に 1 年くらい通っていた時に、スカラーのオーディションとしてのショーケースに出演したのがきっかけでした。実はその時に 10 年ぶりにポワントを履くことになって、声かけられた時にやらなかったら後悔する、と思って、できないかもしれないけれど挑戦することにしました。その後は、もう二度とポワントは履かない、地面を感じて踊りたいと思いましたが。(笑)

とにかくたくさんさんのナンバーに出させてもらいました。フィナーレ入れて 9 曲とか。誰かと一緒に高めあうのもありましたが、ひたすら精神統一をして、自分との戦いだった記憶があります。

ユキジ：お客様にチケットを買ってもらうからには、出られるだけ出よう、と思いました。違う自分を見せる訓練をしないとイケないし、違うスタイルを踊る中で、ヒール履いている時はこういう人で、裸足の時はこういう人で、その中で自分らしさを探すことができました。5 公演、ナンバーもいっぱい。勝負、戦に出るみたいな。尖ってたな。(笑)

今は少し反省してます。でもその時は、誰よりも飛んでやろうと思いましたし、気合い入りすぎて早く踊っちゃうこともあったし、どやー、私を見てください！！という戦闘モードでした。

遥佳さんとは、ピックアップナンバーで一緒になりました。公演「I Have a Dream」でも一緒だったけど、精神的にも尖ってましたね。あまり話さなかったかな... (笑)

遥佳：私はバレエから高校で創作ダンス、大学で京都に行きました。働きながら趣味でダンスを再開して、KAZUMI-BOY 先生から BDC を知って。ジャズが苦手だったのでとにかくカッコいいからできるようになりたいと思って通い始めました。

何かをやるときに自信がないのが私はストレスで、怖いものは潰していきたい派なんです。なので敢えて苦手なジャズに行ってみました。最終的にはショーケースでシアタージャズのナンバーなどにも出演し、怖さの最低限レベルは克服できたと思います！

ユキジ：ショーケースは、普段習っている先生や他の先生をさらに知るきっかけになる場だと思います。先生たちにとっても挑戦の場なんです。なので、出演者の方にも先生の挑戦に着いていく！と思ってもらえたら嬉しいです。

今の自分は今しかないから、今、舞台に乗せてみてほしいです。今年も来年も自分は違うじゃないですか？レッスンに熱心に「自分の今」「日々の課題」をぶつけるきっかけになったらいいな、と思います。

ダンスを仕事としてやっていきたい人でしたら、自己管理能力が強く身に付く場でもあります。人それぞれで自分しか知らない状況があります。自分が言わなかったら発見してもらえないですし、期間も長いからどう自分をコントロールするか、ナンバーごとの切り替えなど、いやでも身に付きます。

趣味でダンスをやっている人も同じだと思います。こんなに大きな舞台で大勢と一緒に同じ目標に向かってやっていくことなんてあまりないし、とにかく体は鍛えられます！

遥佳：私は BDC のショーケースに何年も出続けている諸先輩方が財産だと思っています。ケアの仕方、自分との向き合い方が本当に上手いなど、物凄い勉強をさせていただきます。若い世代は先輩たちを見てそれを学べる点もこの舞台に出演することの素晴らしさです。

ユキジ：それから、一つの舞台でこんなにいっぱいナンバーに出られる、というのも特長です。一般的な発表会だと、普段レッスンを受けている先生の一曲に集中して、というのが多いですが、BDC のショーケースは複数曲に出演することができます。ヘアメイク、衣装、モードなど、瞬時に変えてステージに立つことを学ぶことができます。

実際に仕事で舞台に出ようと思ったら、早替えとか問題ないです、と言えるようになる。靴紐の

結び方、衣装の置き方とか、メイクとか、ヘアセットとか。一番早いやり方を考えてできるようになります。

I: それでは今回のショーケースの演出プランについて、少し聞かせてください！

ユキジ:「ヒューマン」をテーマにします。人間の感情を表現したいです。心理学的に「感情」って実はいっぱいあるんです。でも大人になるについて、ネガティブなものを無視してしまったら、SNSやAIなどで「感じる」ということを真正面から受け止めなくて良くなったのではないかと、思います。でも人生ってそういうものではないし、いろんな感情があって成り立っていると思うんです。なので、感情を晒してるダンサーを見たい、それに振付の先生たちと挑戦してみたいと思っています。アクト全体を繋げていき、観客の感情が動くような流れをつくり出したいと思っています。

遥佳:私は、「言葉」をコンセプトに、「道標」をテーマにしたいと思っています。振付の先生たちには、ご自身が大切にしている言葉や一説、自分の指針になる言葉を選んでもらっています。自分自身も言葉を大事にしているし、先生方一人一人が心に大切にしている言葉を知ること、踊りはもちろん、その先生の人となりや並び立つような、先生をより知ることができるアクトになったらいいな、と思います。それから見終わった時に、パンフレットに載っている言葉と踊りを振り返ることで、余韻にも浸ってもらいたいです。

ダンスと言葉は対極に置かれがち、言葉にできないことを踊りで表現している、考えるな感じろ、と言われて育った人もいます。それは納得できるけど、本当にそれだけか？と思う自分もいるんです。作る側も、踊る側も言語化するというところにストイックに向き合ってみたいという思いがあります。

言語化は理解につながるし、何を踊っているのか、何を表現したいのか、理解して舞台上に立っていくことが必要だと思うんです。言葉にできないけど分かるでしょ、というのではなく。私が尊敬する振付師は言語化が本当に上手で、私も今回それにトライしたいと思っています。

作る側も言語化に挑戦するので、踊る側も理解して人に説明できる状態で踊ってほしいです。ダンスの世界では言葉にすることは嫌われがちですが、それに問題提起をしてみたい、というのが私の狙いでもあります。

ユキジ:私も追加します！（笑）自分が人間であることを認めてほしいという思いがあります。今の自分を、いい年もあれば、大変な年もある。それをそのまま受け入れられるようになりたいという思いがあります。

全部クリアできるわけではないから、その時の感情の変化を受け入れて、認めてあげてほしい。自分の視野を広げてあげて、愛してあげる、そうしたらもっとダンスも世界も好きになると思うんです。

I: 今回のピックアップナンバーについて、教えてください。

遙佳：二人で話し合っ、今回はピックアップアクトではなく、それぞれのアクトで1曲ずつ、ジャンルごとに分ける予定にしています。出演する側のいい意味での競争を促したいです。ライバルとされるダンサーと切磋琢磨してほしいと思っています。それからピックアップナンバーに出演するんだ、という自覚を持ってほしいです。

ユキジ：今回はピックアップナンバーの振付師の名前は出さないでオーディションをします。実は最近のショーケースでは久しぶりです。自分たちの時は振付師の方のお名前は公表されていなかったんです。

それでもピックアップナンバーに出たい人は、挑戦したい、目立ちたい、カンパニー出演者の中でソリストでありたい、まずはその願望で戦ってほしいと思っています。

この人の振り付けだから上手く踊れます、ではダンサーとして生きていくためにはダメだと思うんです。ダンサーXXが、今こういう踊りをできます、というのを見させて欲しいです。

ユキジ：慣れてようが慣れてなかろうが、素敵な踊りは素敵な踊りです。慣れていないスタイルを踊るとき苦手そうなイメージがあるから、それを克服してほしいですし、その挑戦に誰が何人やろうと思うのかを見てみたいです。それを乗り越えてくる人と出会ってみたい。その人たちに舞台を任せます、と言いたいです！

チャレンジする勇気と自分の踊りに責任を持ってもらいたい。対応力、過ごし方、考え方が出ますし、ピックアップは、自分の踊りを見つけ追求する方に来てほしい、そういうナンバーにしたと思っています。

遙佳：ここは熱が入りますが、選ばれる責任を感じてほしい、選抜でやらせてもらうと思う責任を感じるダンサーになってほしいです。ピックアップに出る人たちは、先生にうまくしてもらうのではなく、自分が積み上げたものを先生に持っていく姿勢が必要です。指示がなかった時に無にならずに、自分でキャッチして作っていく人になってほしいです。

ダンスのスキル、キャッチ力、対応力、コミュニケーション能力など全て丸ごと求められる場であってほしいです。

ユキジ：自分で考えるダンサーになってほしいし、そういう人に出演してほしいです。これはお金では買えないもので、とにかく体験してやってみるしか方法はないんです。人間しかできないこと、生でしかできないこと、肉体で何かをするということが大事だと思います。こんなに踊ってられるのがずっと当たり前が続くかはわかりませんから。



I: 最後にダンサーの皆様へメッセージをお願いします！

ユキジ：まずオーディションについてですが、今回はビデオで先に振付はお渡しせず、その場で振り入れをします。同じ場で、同じ時間で挑戦をみたい、用意どんでできない、できた、というのを楽しんでほしいです。

怖いとは思いますが、役があるとか、倍率がなんとかとかではなく、出演する振付師の方々のご挨拶の場、私こういうのをやってまして、というダンスを介した”よろしくをお願いします”をしてください。おしゃべりするように踊ってほしいです！膨大な量ではないので、怖がらないで！

遥佳：オーディションを受ける機会って、ないと思うんです。その特別な緊張感を楽しみに、お祭りに来るぐらいの気持ちできていただきたいです。それにオーディションという目標を掲げると普段のレッスンの意識も変わって来ます。実はその気持ちだけで、能力は向上します！！審査だけではなく、プロセスを応援したい、みなさんにとってもいいことがあります。みんな気持ちは一緒です！

ちなみに、今回締め切りが例年より早いので、お間違いなく！！

ユキジ&遥佳：

今回はリハーサルのかぶりもなるべくないように、我々も努力します。効率よく、参加しやすいように変えていくつもりです。チケットノルマについても、出演するからには多くの人に見てもらえるダンサーになろうと思って欲しいですし、お客様からお金をいただけるだけの踊りを届けられるダンサーを目指していただきたいです。

“いつか”はありません！！レッスンがずっとあると思っている方、上手になったら出ようと思っている方。明日も踊っていただけるか、レッスンがあるかは分からないんです。だから今なんです！

本当に本当に楽しみにしています。会いに来てください！ご参加お待ちしております。よろしくお願いします！！